

2017
6月

ゆうひろば

遊通信
第163号



子ども食堂の食卓風景（にじ色子ども食堂より）

特集 子どもの貧困

なぜ今、子どもの貧困なのか	・・・ 2
子ども食堂の取組みから	・・・ 4
学習支援の取組み／ひとことメッセージ	・・・ 6
札幌市子どもの貧困対策計画をめぐって／ひとことメッセージ	・・・ 8
支援のあり方について	・・・ 10
つんどく屋『痛みのペンリウクー囚われのアイヌ人骨』	・・・ 12
企画報告 エノ・シュミットさんと語るベーシックインカム	・・・ 13
寄稿 『ホームレス農園』をめぐって	・・・ 14
連載 海外だより（第5回 台湾）	・・・ 15
連載 東さんのボロボロ日記（第94回）	・・・ 16
連載 フィールドワークな日々（第70回）	・・・ 17
連載 気ままに俳句（第13回）	・・・ 18
事務局便り など	・・・ 19



特集 子どもの貧困

昨年度の後期「子どもの貧困を考える」の講座を開講したところ、のべ69名の参加があった。基本的な貧困についての学習、子ども食堂、学習支援などの取り組みの様子、行政の計画等も含めてこれからの展望などを取り上げた。今年度その続編を企画、すでに第1回が終了した。具体的な取り組みの提示と話し合いを受けて最後に札幌市の計画を取り上げ今後に向けて市民と行政が共にどう動いて行けばいいのかを探る予定である。一人でも多くの方に「子どもの貧困」の現状や今行われている取り組み、札幌市の動きなどに関心を持ち、講座にも参加していただけたら幸いである。

なぜ今、子どもの貧困なのか

子どもの貧困…市民ができること

皆さんは2005年に爆発的な展開が為されにも拘わらず、一年後にはほぼ消えてしまった「ほっとけない世界のまずしさ」(ホワイトバンド) キャンペーンを覚えているだろうか？ 私は当時購入したホワイトバンド(3つのasterisk付き)を今もずっと左手に付けている。(あの時歌めたまま、今年で12年になる) 中田英寿や乙武洋匡などが広告塔となり、AA諸国の最貧国の貧しい人々への募金になるのではないかと誤解を生みながら一気に広がり、あつという間に収束してしまっ

た。当初からその派手な宣伝に冷やかな視線を送っていた私が今でもホワイトバンドを着用している理由は、本当に「世界のまずしさ」をほっとけないと思っているからだ。

湯浅誠が「子どもの貧困」という視点について、貧困問題解決にとって積極的に評価している。しかし、そのことに関する批判も多くある。講座1期の初回に於いて平井照枝さんに「子どもの貧困は取りも直さず、大人の

貧困に他ならない」とお話し頂いた。私自身は余りにも急速に拡大した「子ども食堂」に危機感を抱いている。単なるブームで終わらせてはならないし、それを必要とする子どもたちに本当に届いているのだろうかという疑問もある。

講師を引き受けて下さった方々の思慮深い試行錯誤の中から、子ども食堂から学習支援も含めて「子どもの居場所」への転換が図られつつあることも分かってきている。市民にできることは、学校に馴染めず多くの困難の中で生きている子どもたちに、オルタナティブな「子どもの居場所」を創ることにあるのではないかと私は妄想し続けている。

佐々木一(ささきはじめ)

札幌市子どもの権利条例市民会議(略称…こどけん)代表。子どもに対する大人の関わり方が「子どもの主導権を奪わない」ことを願い、「子どもの権利」に拘った活動をしています。

なぜ今、子どもの貧困なのか

「遊」では2009年「今、子どもの貧困を考える」(6回)と、昨年「子どもの貧困を考える」(3回)の講座を開きました。

2009年の時は養護施設や学校などから見える子どもたちの困難を社会全体の問題として考えようというものでしたが、8年経った今は「地域の問題」として考えようと「子ども食堂」がクローズアップされているように感じます。「子ども食堂」を子どもの居場所として地域に根付かせ、多世代がそこに集えること、そこからもう一度「社会全体の問題」

として考えていけると思っています。今回も第一回から素晴らしい講師陣にご協力いただいて実施できることに、企画を担当したものとしてこの上ない喜びと、今後「こうありたい」につながる可能性と希望を感じます。是非、講座にいらしてください。

三澤恵子(みさわけいこ)

子どもと女性の相談員。子どもに寄り添う活動として「こどけん(こどけん相談室)」「グリーフサポートSCh」に関わり、DV被害者に寄り添う活動として「holohol(NO-vipoo)」「1チハウス」に関わっている。

子どもの貧困…「遊」の役割

日本中、北海道中、札幌中にあつという間に広がった子ども食堂！この現象はなぜ起きたのだろうか？

遊の講座「子どもの貧困を考える2」第2回「地域で子どもを育てるその2」全道の子ども食堂の現状」の広報のため、札幌市内の子ども食堂について調べてみた。多くの子ども食堂についてフェイスブック、ブログ等での活動の様子を知ることができた。一軒一軒にドラマがあり、立ち上げに至った熱い思い、地域の皆さんや近くの子どもの協力の様子、活気ある食堂開催の様子などを知ることができた。

「貧困の子どもたちを救うためなら、月1回では話にならない。もっと一食の中身を質素にしてもいいから回数を増やすべきだ。」「今のシステムではほんとうに困っている子どもたちは中に入りにくい。本当に困っている子どもたちがその場に入れるような工夫が必要。」等厳しい意見もある。しかし、今存在するスペースは様々な市民が様々な必要性の下に自分たちの出来る範囲で始めた取り組みである。上から目線で批判ばかりしても始まらないのではないか。あるテレビ局の子どもの貧困特集番組で一人の研究者が言っている。



「子どもの貧困を考える」講座風景 (2016.10.17. 於：さっぽろ自由学校「遊」)

雨宮恭子(あまみやきょうこ)

2年前に37年勤めた職場を退職。遊の「うたごえ喫茶」「手縫いサークル」にかかわり楽しんでいる。

た。「国には国の、地方自治体には地方自治体の市民には市民のことができることがある。国は国にしかできない取り組みをするべきだし、地方自治体も同じ。その上で私たち市民もこの問題に目をそむけず今自分ができることをしていくことだ。」
様々な位相の取り組みを講座や通信などでつないでいくことが自由学校「遊」の役割なのかなと感じている。

特集

北海道における子ども食堂の現状

二本松 一将

0. はじめに

筆者は2016年4月15日、江別市大麻東町にある大麻銀座商店街の「麺こいや」で「子ども食堂ここなつ」を開設した。大学生が活動の企画をし、大人が学生の活動を支え、子どもたちの日常づくりを行っている。⁽¹⁾

また、2016年9月より、「北海道における子ども食堂の現状と課題」を明らかにするため、道内にある「子ども食堂」30か所（札幌市、江別市、小樽市、旭川市、函館市）を調査した。「子ども食堂」の運営者、利用する子ども、若者、保護者50名以上にインタビュー調査を行った。現在も、札幌学院大学の研究生として「子ども食堂」の調査を行っている。

1. 「子ども食堂」の定義と活動の広がり

「子ども食堂」と名付け、活動が始まったのは2012年8月である。東京都大田区にある八百屋だんだんの店主、近藤博子が名付け親である。近藤は「子どもが一人でも安心して来られる無料または低額の食堂」と定義している。⁽²⁾北海道における「子ども食堂」の始発は、2015年11月1日に団体を発足させた、札幌市豊平区の「にじ色こども食堂」である。⁽³⁾

筆者がインタビュー調査を行った2016年9月時点では、道内に30か所、2017年6月1日現在では、道内に60か所以上の「子ども食堂」を確認することができる。

「子ども食堂」は、「子どもの貧困対策」とセプトで報道されることが多いが、「子ども食堂」を運営する側の思いは必ずしも「貧困対策ではない」ということが、筆者の行った調査で明らかになった。2016年7月以降、道内の「子ども食堂」では「子どもの貧困」のイメージを避けるため、「みんなの食堂」や「地域食堂」、「わくわく食堂」と名乗る団体も生まれた。

「子ども食堂」の広がりに伴って、2016年度以降は北海道の行政も動きはじめた。「子ども食堂」に物資支援するためのフードバンク（室蘭市、江別市、小樽市など）を開設することや、補助金を出す地域（恵庭市、石狩市、旭川市）もある。札幌市は「子ども食堂」の実態を調査するための予算を2017年度設けている。

「子ども食堂」を継続的な取り組みとするには、何等かの政策に位置付ける必要があるが、「子ども食堂」の曖昧な良さが失われてしまう可能性がある。「子ども食堂」ブーム以前から、子どもの「居場所づくり」や「食事ケア」を行っている団体に習い、

活動の地盤を安定させていくことが、今後の課題である。

2. 「子ども食堂」の機能

「子ども食堂」に参加する理由は、必ずしも困りごとを抱えているからではない。単純に楽しそうだからと思いい、参加している人もいる。「子ども食堂」に参加し、誰かの日常に出会うことで、その人の暮らしが見えてくる。その中で個人が当たり前だと思っけていても、「実は困っているのではないか」と生活の違いを発見することができ、困りごとが顕在化していく。

「子ども食堂」は「食事ケア」に限った場ではなく、人々が出会い、交流し、日常でのあいさつが生まれるなど様々な効果を持っている。失われた地域の繋がりを再形成する可能性をもっているのだ。

【参照資料】

- (1) 子ども食堂『ここなつ』（毎週金曜17時30分）
<https://www.facebook.com/R3810/>
- (2) YAHOO! JAPAN ニュース 湯浅誠『名づけ親が言う「子ども食堂」は「こども食堂」ではない』
<http://bylines.news.yahoo.co.jp/yusamakoto/20160724-00060184/>（2017年6月12日 最終閲覧）
- (3) 『にじ色こども食堂ホームページ』
<http://kodomoshokudou.net/>（2017年6月12日 最終閲覧）

二本松 一将（にほんまつ かずま）
札幌学院大学 人文学部 人間科学科 研究生

特集

にじ色こども食堂という場所

安田香織

「子どもの貧困は親の責任だろうー」

「子ども食堂のネーミングは貧困と結びつくから変えたら？」

今でも鮮明に思い出す言葉です。

2015年、12月に札幌初の「にじ色こども食堂」はオープンしました。

当初はスタッフの友人の親子連れの参加が10名弱の寂しい状況でしたが、現在では毎回50〜60名が集まる賑やかな大所帯の活動になりました。

今ではお決まりになった光景ですが、子どもたちが「こんにちは」と元気な声で食堂に入ってくると、スタッフが「おかえり」と笑顔で迎え、大人数でひしめき合いながら晩ごはんを食べています。

子ども食堂開設前には出会わなかった子どもたちや大人たちが一緒に料理したり、同じ食卓で御飯を食べたり、その日の出来事を話したり、ここには「貧困」は存在していません。

きつとこの「こども食堂」の中での関係性で完結していたのなら、私たちはそこに集う子どもたちや大人たちの声を受け取ることは

なかったのかもしれない。

私たちは「子ども食堂」以外に親が子供のいない時間集える「フリースペース」や少人数の中学生のみに学習支援と晩御飯を提供する「学習スペース」を展開しています。

距離が近くなるほどに子どもたちは私たちに信頼し、様々な事を話してくれます。その中には、想像しがたい環境に生きる子どもたちがいます。その声に耳を傾け、必要であれば自治体に繋ぎ、スタッフで協力して子どもたちを見守っています。

しかし、私たちに出来ることは限られています。その子の人生を変えることはできません。私たちはその子自身が自ら生きていける力を養えるように温かなご飯を用意し、自分らしくいられて、「辛いことがあってもあそこに行けば力が湧く」と思える場所を大切にしています。

「子どもの貧困」とは何なのでしょう。親の責任だから知らないふりをすればいいのでしょうか。貧困をイメージさせる名前を変えればいいのでしょうか。



にじ色こども食堂の食卓

貧困か、そうでないかで子どもたちを区別しない私たちの活動は今もこれからも、子どもたちの心に寄り添い、子どもたちが多様な人たちに触れ、多様な生き方があるということとを伝えていくことだと思っています。そして、そこは手作りの心のこもった晩御飯がある場所なのです。

安田香織（やすだ かおり）
にじ色こども食堂代表。

こども食堂・学習支援・その他の集いにかかわっている方たちの
ひとことメッセージ



<ねっこぼっこのいえ>

地域子育て支援拠点・若者の居場所づくり・学習支援等の事業を展開（多世代交流型）

ここを立ち上げた時に願っていたことが、少しずつ少しずつ実際の声として届けられてきたような実感を今も感じているところです。人が生きていくということ、育てられていくということ、死ぬということと共に人は助けられ、助けることで生きようとして生まれてきていること、改めて気づかされました。また、10年間続けていく中で、貧しさの中で、欠けの多い中でこそ豊かにされることをたくさん経験できたことも財産であり、そこで経験した喜びをこれからの世代の人たちに届けたい、分かち合えたらいいな…。このような世の中の動きの中だからこそ。そのことを強く願っています。ちょP（実年齢50歳 仮年齢万年10代）

多世代交流ひろば「ねっこぼっこのいえ」で、主に子育て支援に関わっています。子育てによる孤立や焦燥をつのらせる親たちと、その影響を受ける子どもたちの環境（社会）を少しでも明るいものにできたら…と思っています。誰だって自分がかかえているもの（特にネガティブなもの）を他者に見せるのは抵抗があるもの。でも、ちょっとその鎧を脱いで肩の荷をおろしてひといきつける場があれば…。そしてそんな場でありたい、ねっこは。日々場所づくりに奔走しています。責められず、見下されず、ここでなら…と心を開けるような信頼関係はそう簡単には作れません。私たちも日々自分を振り返らずにはられません。細かいことを一つ一つ確認しながら、おごらず、そびえず、同じ視線を心がけることを忘れずに…。これまでたくさんの人たちと出会いましたが「ねっこがあって良かった」「今でもねっこを思い出します」「ねっこでもらったことを今度は私がかかえていきます」という声を聞くとうれしくなっちゃう私です。けろ(53歳)

子育て支援を札幌でしています。昼間の子育てサロンを10年間開いてきましたが、近年、昼間は働いているひとり親の家庭の厳しい状況を知る機会があり、昼間のサロンは日中の親子の孤立予防には一定の役割を果たしてきたと思いますが、働いている家庭の親子には手が届いていない状況です。多様なライフスタイルが存在する現在、全ての子育て家庭に子育て支援が届く様、夜型の子育てサロンの必要性を感じています。札幌市の地域子育て支援拠点事業として、常設子育てサロンを夜間型としても実施することを望んでいます。こばまゆ（40代）

多世代でいろんな価値観の人が集まるので、みんなに寄り添いたいと思うが、とってもむずかしい！（正直疲れる…）でもそれがたのしいところでもあります。参加者さんの居場所となりたく、共に私の居場所でもあるんだな～。みやちゃん(51歳)

年若いでも、誰かのためになれるのが嬉しい。誰からもたよりにされない生きていいの、と孤独を感じる。M（58歳）

< Kacotam > 子ども・若者の学習支援団体

学習支援をしています。子どもたちから教えてもらうことや、子どもたちとの関わりの中で学ぶことがたくさんあり、自分も成長できていると感じます。A.S（20歳）

子どもたちと関わる機会が増えてとても良かったです。きっちゃん（18歳）

今日、よみうりonlineで札幌市のアンケート調査で貧困家庭の子が塾や病院に行けない割合が増えている、というニュースを読みました。Kacotamで活動していく中で、前者の塾に行けない子どもたちの助けに少しでもなれば良いなと感じました。学習だけではなく、子どもの心の支えにもなることができれば良いなと、日ごろから感じています。まゆゆ（19歳）

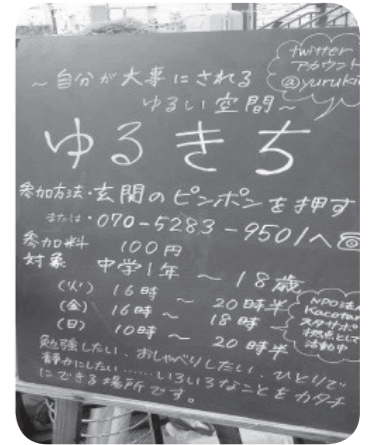
特集 ゆるきちルポ

ゆるきちとは…NPO法人Kacotam（子ども・若者の学習支援団体）が運営する中高生の“居場所”

開館日 火曜 16:00～20:30 金曜 16:00～18:00
日曜 10:00～20:30
参加料 100円
住所 札幌市東区北25条東6丁目3-2
電話 070-5283-9501

玄関の前に立つと利用の仕方の看板がある。

中に入ると一階は広いスペース二階はいろんなコーナーに分かれている。



学習コーナー



趣味の部屋



コタツの部屋（マンガあり）



<代表の高橋さんとの一問一答>

Q：いつスタートしたのですか？

A：昨年の11月8日にスタートしました。

Q：なぜ、作ったのですか？

A：一つは家庭や学校に居場所がない子どもにとっての居場所として。もう一つは教科学習の中で力を出せない子が、より力を出せる場として…。

Q：利用のされ方は？

A：現在は学習支援でかかわっている子がほとんど。

火曜5人位、金曜5人位、日曜7～8人位。

開設する時、町内会にもお話ししました。これから地域の子どもたちにもはたらきかけたいと思っています。

Q：必要としている支援は？

A：まずは第一に資金面でのサポートをお願いしたいです。大家さんが趣旨を理解し家賃を無料にしてくれていますが、運営していくにはいろいろと必要な物があります。洗剤、石鹸、ティッシュペーパー、トイレトペーパー、ペットボトルのお茶等々…。資金面の援助はちょっとという方はこれらの物を現物で寄付して下さると大変助かります。

※カコタ部という部活動のような活動も始まっているようです。子どもたちが書いたゆるきちのマスコットキャラクターもかわいい！

こども食堂・学習支援・その他の集いにかかわっている方たちの
ひとことメッセージ

<NPO法人ジェルメ・まるしえ> ひきこもり支援・こども食堂の運営等

昔と比べて、こどもたちのまわりの環境、それぞれの家庭の環境は変わってきていますが、そんな中でも、こどもはこどもらしく自由で無邪気でいられたらいいなと思います。普段我慢したりさみしかったりする子が、子ども食堂でそこにいる家族以外の人とつながったり、地域の人と交流できる、そんな機会を作って行けたらいいなと思っています。まるくるりん (30代)



学習支援や相談の場で様々なお子さんと会う機会がありますが、「子どもの持つユーモアや想像力、エネルギーはすごい!」といつも驚かされます。そんな子どもの持つ魅力や身体だけでなく、内面の“豊かさ”を大事に育てていくために、ガチガチじゃなくゆるやかに支えられる場所で私たちも少しだけ応援させてもらえたら嬉しいなと思ひながら、楽しく関わらせてもらっています。スタッフN (30代)



<いろいろなことに関わっている大学生>

札幌市内の学習支援団体や子ども食堂で活動をしています。学習支援や子ども食堂に来る子ども達はみんな似たような悩みを持ってやってきます。「学校で友達とうまくいっていない」、「親とけんかした」、「部活が辛い」などなど……。学校にも家にも居場所がない子どもたちには逃げ場がどこにもなく、外へ助けを求めてさまよっています。そんな子どもたちを拾い上げてケアをするのが学習支援や子ども食堂だと思っています。学校の友達ではない同年代の友達、親でも先生でもない少し年上のお兄さんおねえさん、素の自分でいられるあたたかい空間に、子どもたちは居場所を求めてやってきます。そんな子どもたちをいつでもやさしく迎えられる環境を作っておきたい、そんな想いで活動を続けています。自身の経験も踏まえながら、これからも子どもたちに親身に寄り添っていけたらと思っています。深堀麻菜香 (19歳)

札幌市の今後の動きについて

6月13日に札幌市こども未来局子どもの権利推進課を訪ね、子どもの貧困問題に対する札幌市の今後の動きについてお聞きしたところ、文書で以下のような回答をいただきました。また、8月28日の遊の「子どもの貧困を考える2」第4回には市の担当部局の方が計画案を持参して参加して下さるとのことでした。

(仮称) 札幌市子どもの貧困対策 策定スケジュール案

平成29年7月 計画素案の作成/外部有識者、庁内会議にて素案の報告

平成29年9月 計画案の作成/外部有識者、庁内会議にて計画案の報告

平成29年12月~30年1月 パブリックコメントの実施

平成30年2月~3月 計画案の最終調整/外部有識者、庁内会議にて計画の報告

平成30年3月 計画の策定・公表

※上記のスケジュールは現時点(6月)での案であり、今後変更となる場合があります。

特集

札幌市の子どもの貧困対策計画をよりよいものに
—「札幌市子どもの貧困対策計画を考える市民の会」の活動

辻智子

札幌市が現在作成中の「子どもの貧困対策計画」(以下、計画)が「よりよい」ものになるよう市民の声をまとめて届けたいと今年(2017年)3月より活動を始めました。教育や福祉の実現場の職員の方々、赤ちゃんならお年寄りまで地域の人びとの交流の場をつくっている方々、様々な困難を抱えた子ども・若者を支援する活動に取り組んでいる方々に話をうかがいながら、「子どもの貧困」問題にかかわって札幌市が公的に担うべき役割とは何かを私たちなりに考えてきました。それを市民の意見としてまとめ、計画策定過程において札幌市長に提出することを目標としています(6月末提出予定)。

意見書の提出に先立ち、4月28日には「札幌市子どもの貧困対策計画」を考える」と題した「緊急!市民フォーラム」を開催しました。山野良一さん(名寄市立大学)に講演した。子どもの貧困対策計画に望まれることは—子どもの貧困対策における基礎自治体の

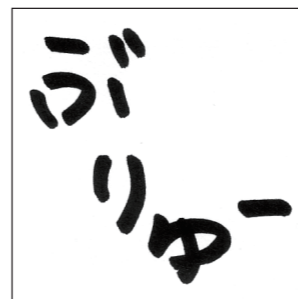
役割」をお願いし、基本的な問題の所在や計画づくりの際の視点を具体的に解説していただきました。またリレートーク&メッセージとして、樋口厚子さん(勤医協ほづら保育園)、小林真弓さん(ねっこほっこい)、富塚とも子さん(西野こども食堂kaoko)、高橋勇造さん(特定非営利活動法人kaotam)、本間康子さん(札幌琴似工業高等学校校定時制養護教諭)、屋代通子さん(特定非営利活動法人CAN/自立援助ホームシーズ南平岸)から各々の現場の経験に即した現状や課題をお話いただきました。それらを受けてコーディネーターの大澤真平さん(札幌学院大学)に、住民にとって一番身近な自治体は何をすべきか、札幌市の計画策定に向けて確認できたい点をまとめていただきました。(内容は現在作成中の記録冊子を参照のこと)

大型連休に入る金曜日の夜にもかかわらず、私たち主催者の予想をはるかに超える130人も参加者があり、一時的に「立ち

見」も出るほどで、市民の関心の高さをひしひしと感じ、急ごしらえながらも「緊急」にフォーラムを開催してよかったと思ひました。また、札幌市の計画づくりに携わっている札幌市役所職員が複数で参加、会場の熱気を肌で感じて帰られました。今(2017年6月中旬)、札幌市は、昨年度実施した生活実態調査の分析作業と並行して、「子どもの貧困対策計画」素案を作成中とのこと。私たちも意見書を市に提出するとともに、今後の計画策定過程で適宜、発信していきたいと考えています。

辻智子(つじともこ)

1971年生まれ。札幌市在住勤務。職業は大学教員。夫と中学生の子ども3人家族。



特集

多世代多様な居場所から、子どもの貧困対策計画に望むこと

小林真弓



ねっこぼっこのいえは、2007年より、赤ちゃんからお年寄りまで誰でも無料で気軽に集える多世代交流ひろばを開いています。2011年度より、札幌市の常設子育てサロンとして指定され、年間のべ5千人を超える参加者があります。不登校や生きづらさを抱える子ども若者達も家庭と学校以外の居場所としても、多くの参加があります。

活動する中、色んな困難を抱えた子ども・若者に出会い、現在は、月1回夜に、中高生や若者の居場所として、無料の学習支援と食事の提供を実施したり、NPO法人カコタムさんと協働して、ひとり親の家庭の子や経済的に困難な家庭のお子さんを対象とした学習支援を月に1〜2回ねっこぼっこのいえでも実施しています。

また、地域の小中学校との連携も徐々に出来はじめており、ねっこぼっこのいえに遊びに来ていた課題を抱えた生徒についても、一緒にケース会議を持ち、情報を共有したり、方向性を一緒に模索することもあります。また、スクールソーシャルワーカーさんより、

不登校の子の昼間の居場所として紹介されることもあります。

課題を抱えた子ども・若者は、長い時間、見守る目やサポートが必要な場合もあります。そういった面でも、その子が学校を卒業した後も、継続してずっと利用でき、長く子ども達の育ちをみていける場にもなっていることは、地域の居場所ならではの特徴ではないかと思えます。ねっこぼっこのいえで青年期を過ごした若者が、結婚し赤ちゃんを連れて戻ってくるということもあります。

ここ数年、そういった困難を抱えた子ども若者に多く出会う度、みえてきたのは、ひとりで頑張って子育てしている親の姿です。特にひとり親家庭の親御さんが、家事、生計、学校、保育園、子どもの世話など、一人であるでもしなくてはならないワンオペ育児で、疲弊していたり孤立しているケースも多く、もっと早い段階で、人とのつながりや、気軽に子育てについて相談できる場が必要なのを感じて居ます。乳幼児家庭の早い段階から家庭支援につながるしくみとして、現在、昼

間の常設子育てサロンは多数ありますが、働いている家庭の親子が平日立ち寄れる夜型の子育てサロンは設置されていません。ひとり親家庭の親御さんの80%以上は働いているデータも出ており、働いている家庭の親子などが、交流することで孤立を予防したり、子育ての悩みを気軽に相談出来たり、利用できるサービスの情報を得られることを支援する夜型の常設子育てサロンや、現在、乳幼児親子が利用しているような保育園などにも、保育が終わった後に親子が集えたり、夕食を低額で食べられたり、気軽に相談できるような場を設置するなどの視点を札幌市の子どもの貧困対策計画の策定の中の1つのメニューとして望みます。

小林真弓（こばやし まゆみ）

ねっこぼっこのいえ代表。2007年ボランティア団体「ねっこぼっこのいえ」の立ち上げから現在まで、運営に参加。多世代多様な場の魅力に足を洗えずに10年目を迎えました！

特集

子どもの貧困を生む社会的背景

理解から共生の社会へ

平井照枝

今年の春も私たちの団体には、「制服が買えない」「新学期の準備が大変」「部活で遠征に行かせられない」という深刻な相談がありました。子どもの貧困は世帯の貧困であり、当然ですが、親の貧困が子どもへ影響しています。貧困と言うと、最低限度の衣食住に欠ける絶対的貧困をイメージし、昔の方が大変で、今の子は貧困などではない。また、貧しくても努力すればそこから抜け出せるという事が言われます。相対的貧困では、他の子どもと同じようなスタートラインに立てず、何かに興味を持ちチャレンジしようとしてもそれが出来ない状況です。

では、子どもの貧困は親の責任なのでしょうか。日本のひとり親家庭の特徴は、就労率が90%を超えているにも関わらずワーキングプアの状態です。北海道が行った「子どもの生活実態調査」では、母子世帯では83・5%が、子育て世帯全体でも67・4%の世帯で家計に余裕がない状況であることがわかります。子どもの貧困には、様々な要因が関わって

います。この国では、男女の賃金格差も大きく、子どもがいる事で更に賃金格差が広がります。正規社員で収入を得るためには、長時間労働を余儀なくされ、家庭で誰かが家事や子育てを担わなくてはならず、その結果、いまだに多くの女性は仕事か結婚、育児を選択しなければいけなく、一度退職してしまえば、その後正規雇用されるのは大変難しいのが現状です。

子どもを預ける環境も、早朝や夜間、病後児など柔軟な保育体制は十分とは言えません。身近に親族がいなければ、子どもの病時や親が体調不調時など、預け先がありません。公的な支援制度はありますが、その中の「ひとり親家庭日常支援事業」は周知度も低く、利用率も札幌市でも2%以下となっています。自治体によっては事業自体がないところもあり、支援を受ける事ができません。子育て支援事業の緊急サポート、ファミリーサポートも自治体により利用料助成などが違い、利用できていない方も多くいます。早朝出勤しなければいけない場合や、放課後児童クラブが

終わり、親が帰るまでのほんの1時間でも、地域で子どもを預かる場があればと思います。また、仕事、育児、家事を全て一人で抱えるひとり親にとって、例えば月に一度でも気持ち話を話せる場があれば、また翌日から頑張る力になるのではないのでしょうか。

地域で何かしたいと思っている方と、少しだけ手を貸してほしいと思う方がマッチングする仕組みが出来れば、子育て世帯に限らず介護が必要な方等も利用できます。

子ども食堂が道内でも増えている事はとても嬉しい事です。しかし、そこに行けない子どもたちが大勢います。子どもの貧困を考える時、一番の解決は親の収入を上げる事です。安定した仕事に就き、将来に希望の持てる収入を得る事が必要です。社会保障には財源が必要と言われますが、私たちが望む社会はどのような物でしょうか。病気や介護が必要になっても、安心して暮らせる、多様性を認め合い、誰もが生きやすい社会をつくるため、社会全体の問題として捉えて頂ければと思います。

平井照枝（ひらいてるえ）

しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道代表。ひとり親に限らず、誰もが子育てしやすく安心して暮らせるような社会を目指し活動している。1級FP技能士、CFP、キャリアコンサルタント、CDA。

土橋芳美作 叙事詩

『痛みへのペンリウク—囚われのアイヌ人骨』について 花崎 皋平

この叙事詩は、知里幸恵、バチエラー八重子、戸塚美波子以来、久々に現れたアイヌ民族の詩人、土橋芳美による長編叙事詩です。この作品は二つの面の特徴があります。一つは、近代アイヌ史における大きな先住民族差別事件であり、多数派日本人による植民地支配の事実でもあるアイヌ人骨を掘り返し、持ち去った事件の被害者の一人 平取町の工カシ ペンリウクの家族につながる作者が作ったものであるという面です。民族の歴史を自分の問題として受け取り、差し出してい

るのです。

もう一つの面は、それを叙事詩という文学作品に仕上げていることです。アイヌ民族は、詩歌を好む人々ですが、今は、詩を書く人は多くありません。この作品は、内容、形式ともすぐれており、これからアイヌ文学の古典として味わわれてほしいものだと思います。

作者は、先祖ペンリウクを呼び出して語り合い、その願いをかなえるために立ち上がります。作者にとつては、出来事は遠い過去のことではなく、その遺骨が、北大に平取1号と分類されて保存されていることを知った時から、アイヌとしての魂をゆり動かされ、自分がそれを取り戻し、故郷の地に返すことを求められてるという自覚に立ったのです。歴史を背負って現在に向き合う在りようです。作品の終わりは次のようです。

わしが死んで
一一三年
ここに
おまえが来てくれた

(花崎 皋平／著述業)

明日はつんどく屋で 買ってほしい・・・



『痛みへのペンリウク—囚われのアイヌ人骨』 土橋芳美著
(草風館、税込1000円)

企画 報告

特別企画「エノ・シュミットさんと語るベーシックインカム」開催報告 柏野 大介

柏野 大介

ベーシックインカムとは、簡単に言うと、無条件にすべての国民が最低限暮らせるだけの収入を得られるという仕組みである。社会保障や福祉の世界の話のようだが、実は奥が深い。

スイスでは昨年このベーシックインカム導入を求める国民投票が行われた。賛成票は国民の23%にとどまり、否決という結果に終わったが、その国民投票を主導したのがエノ・シュミットさんで、彼が4月から5月に日本を訪れました。

エノ・シュミットさんを新千歳空港でお迎えし、最初に話題になったのは貨幣のこと。福祉制度がどうか、勤労意欲がどうかではなく、今私たちが使っているお金の価値、お金

が何を表しているのかということだった。

エノ・シュミットさんの講演は、あたたかく、刺激に満ちていた。「今までのやり方」はあたり前じゃなくて、気づかなく、気づけなくなっていたものはな



エノ・シュミットさん

んだらうか。何かを生み出すときに、現在の私たちは過去の蓄積の上に立っている。私たちがお金を支払うのは、今何かを生み出した人に対してであって、過去の蓄積をしてきた「社会」に対して支払うことはしない。自給型の社会から産業化された社会への変化と同じくらい、今直面をしているデジタル化やAI（人工知能）の普及による変化は大きいかもしれない。

今、私たちが知っている「モノの値段」に含まれているものと含まれていないもの、その意味を考え直せば、ベーシックインカムは増税をしなくても、実現することができるかもしれない。

エノ・シュミットさんが繰り返し言ったことは、難しい理屈ではなく、私たちがそれを望むのかということ。国会のニュースは、気が滅入ることばかりで、未来を想像することを少し忘れていたように思う。「あんなこといいな、できたらいいな」と歌った未

アイヌは滅びず
生きて在るとな
芳美よ
悲しむことはない
人間として
恥入らねばならぬのは
わしら
アイヌではない

だから涙をふいて
立ちあがり
ペンリウクの
痛みを
語りつづけよ

序文に書きましたが、私は、土橋さんとは一九七三年以来の旧知り合いです。長い年月をへだてて再会し、この作品を読ませてもらって、生涯にめったにない感動を味わいました。土橋さんは、今では伝説のように語られる、一九七〇年代に若いアイヌが作ったオピニオン新聞『アヌタリアイヌ（われらアイヌ）』刊行に取り組んだ人でした。もっと若い頃には、『日高文芸』で、鳩沢佐美夫さんたちと文芸活動をしていた人です。この本が多くの人に読まれるよう願っています。

来はもう過去になってしまったけれど、未来を描くのは私たちが。

「ベーシックインカムがあったら、あなたは何をしますか？」



「エノシュミットさんと語るベーシックインカム」参加者と (2017.5.1. 於：札幌エルプラザ環境研修室)

柏野大介(かしのだいすけ)
元旅行者。ブラック企業での勤務など、安定雇用とは縁のない道を歩む。

寄稿

『ホームレス農園』（小島希世子著、河出書房新社）をめぐって

エゾウルフ



命をつなぐ「農」を作る！
若き女性起業家の挑戦
小島希世子

本のタイトルに魅かれ読んでみた。以前より私も経験的に、ホームレスなどの社会問題や福祉問題、教育問題などを、農業で効果的に解決し得ると考えていた。現在は仁木町にある自然栽培農学校に通ったりしながら、無農薬・無肥料のユニバーサル農園を目ざしている（私も身体障碍です）。ただ無農薬での新規就農は、制度や資金などのハードルが多く難航しているが、近年、安全な農業に対する関心が高く、一方で「農業難民、ふるさと難民、経済難民」などの言葉も聞かれている。行政が必要や緊急性の不明瞭な「公園」に168億円以上もの血税を投ずるなら（近くには大型公園が三つもある）、環境や個人に直接役立つ農業に振り向けるべきだと考える。農業は失業者、生活保護受給者、ホームレス、ニート、引きこもり、高齢者や障がい者への支援、子どもの良質な教育や一般の心身の健康にも資することができる活動である。

著書では、幼少時より農業や自然が好きだった筆者（1978年生まれ）が、ホーム

レスや生活保護受給者、ニートなどへの就業支援活動（大量生産ではない無農薬・無肥料栽培）に至った経緯や現状、展望が述べられ、日本初の試みに学ぶところも多い。農園で行っている生活困窮者への就業研修は、現代の三つの社会問題「求職者の雇用と自立」、「農家の人手不足・後継者不足」、「現代人のメンタルヘルス」を同時に解決することを目的とする実践であることがユニークだ。「他の人と関係を結ぶのと同じスタンスで彼ら（ホームレスら）と接し、関係を結んできた」という姿勢には、筆者の誠実な人柄がうかがえる。また、長年の農業との関わりから、「農の

いいところ」として以下の点を挙げている。
①「自分で野菜を作って食べられる」、②「自然に癒される」、③「一生涯続けられる仕事や趣味になる」、④「食べた人に喜ばれる」、⑤「体を使って健康になる」。これらは、他の職業にはない農業の奥深い利点であるが、「農」とは命を支え養うという、人間にとって根源的な活動であるから大切であるといえる。豊かな可能性を有する農が、この北海道、日本全体、世界でも一歩ずつ広まっていくことを願う。

Ezo Wolf・蝦夷狼
農村を遊び場・学びの場として育つ。仕事は園芸・農作業。現在仁木町の自然栽培農学校に通うなどしてユニバーサル農園を目ざす。愛読書：内海聡、座右の銘：「万人直耕」（安藤昌益）、好人物：ターシャ・チューダー、趣味：花・ハーブ・野草、温泉、自然など

図書室喫茶 YWCA Café
カフェボランティア募集中！
札幌 YWCA 011-728-8111
中央区南22条西15丁目
ザニークレスト札幌1F
「電車乗降所前」徒歩2分
TEL&FAX 011-533-8123

海外だより

「遊」と関わり、つながりのある海外在住者に、日々の暮らしぶりや現地の状況などをレポートしていただきます。

第5回 細谷 悠生さん (台湾在住)

楽しい台湾ニュース翻訳 おめでとう台湾

今年の3月末、台北に引っ越してきました。引越して最初の感想はやっぱ「暑い」。これまで約3カ月、身体がべたつかない日は1日もありません。まあそんな中でもなんと毎日働いています。勤務時間の4分の1くらいを占めるのがニュースの翻訳です。それを載せようか選ぶうちに見入ってしまった、ついついネットサーフィン。やはり日本とも中国とも違うニュースがいっぱいあって、わからない言葉を調べると最近流行のネット用語だったり、現政権の政治家のあだ名だったり。

さて、その楽しい翻訳作業ですが、つい先日すばらしいニュースが舞いこんできました。「台湾で同性婚が合法化」というものです。

ニュースによると、5月24日（水）、台湾の最高司法機関に当たる司法院大法官會議が、現行の民法の「同性間での婚姻は法律上成立しない」との内容は憲法で保障される婚姻の自由と平等の権利

に抵触するものであり、同性による結婚を禁じるのは違憲との判断を下したのでした。2年以内の法改正か、もしくはこの期間内に成立しなかった場合も2年後からは同性カップルの婚姻届けを受けられるようになります。これについて、法的に同性による婚姻が認められたこととなります。

台湾はアジアでは「比較的リベラル」と言われる国です。アジア最大のプライドパレードも開かれているし、デモもよく行われます。2013年だったか、台北駅前の4車線道路を1週間も封鎖したのには驚きました。日本の東京駅前だったらありえないですね。そんな台湾ですが、2013年から同性パートナーシップ制度を施行していましたが、「結婚に準ずる関係を認める」と言いつつも、法的効力は持たなかったようです。



プライドマーチでレインボーフラッグを振る祁家威さん (wikiより)

それにしびれを切らした（？）のが、祁家威（チ・ジャーウェイ）さんという人。この方は1986年に台湾で初めてパートナーとの婚姻届を提出して拒否され、権利を求めて闘い続けてきた勇敢な運動家です。これまでも何度か立法院に同性婚を認めるよう訴えていて、訴訟まで起こしたけれど、敗訴しています。結婚も認められない同性愛者は「二等公民」、つまり国民として当たり前の権利が

ない、選挙権のない外国人や移民と同じだというのが彼の主張でした。そして2015年8月の七夕の日、この日は台湾ではバレンタインデー的な日なのですが、祁家威さんは婚姻に関する憲法解釈の見直しを求める申立書を司法院に提出しました。それから1年半経った2017年2月、司法院はこの申立書を受け受理したと通知し、3月に祁家威さんを法廷に招きました。この時の「この日を41年と6カ月と24日間待っていた」との言葉が印象的です。そしてついに今回の決定

に至ったのです。ところで台湾が中国との統一とか独立とかでもめているのはご存じだと思いますが、統一したいのが国民党、独立派が民進党です。で、新聞も国民党系とか民進党系とかがあって、それぞれ偏った報道をするんですが、現総統の蔡英文さんは民進党なので、国民党は「蔡英文は同性愛者だ」なんて言っています。

ともあれ、2年後の5月24日が楽しみです。2年後のその日、喜びに満ちたニュースを翻訳できますように。

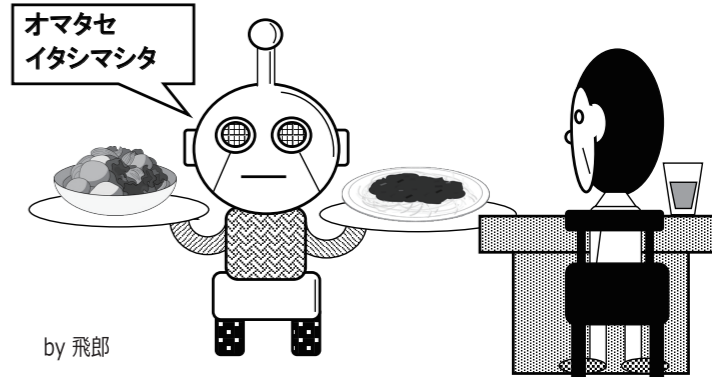
細谷悠生（ほそや ゆき）
2006年台湾に留学。2011年から上海で5年を過ごし、今年からまた渡台。日本語フリーペーパーの編集業をしています。

ひがしさんの ボロボロ日記

東 龍夫

第94回

人手不足の先にあるもの



by 飛郎

企業が雇用する労働者が不足しているといえます。つい最近、「有効求人倍率がバブル期（1980年代末）を越えて全国平均で1.48倍に。これは1974年以来43年振りの高水準」という報道がありました。宅急便の運転手が不足していて、「昼休みもとれない。朝7時から夜11時までの過酷な労働。なのに、残業代も支払われない」という某大手宅配便会社の状態も明らかになっています。

札幌ではどうなのでしょう？「ハローワーク札幌」の最新（2017年5月29日）の全職種の有効求人倍率を見ると、フルタイム求人で0.96倍、パート求人で0.99倍でした。東京では、フルタイムで1.65倍、パートで2.56倍だそうです。ちなみに北海道で有効求人倍率が高い地域は何処だと思えますか？一番高い1.58倍なのが浦河、次が岩内の1.50倍、その次が紋別の1.44倍。いずれも漁業・水産業の地域です。

話を札幌に戻します。それでは職種別ではどうなのでしょう？フルタイムとパートでバラスキがありますが、有効求人倍率が高いのが、医師・看護師・薬剤師などの専門職を除けば、介護ヘルパー（パート3.66倍）、コンビニなどの販売員（パート3.5倍）、調理人（フルタイム4.48倍）、給仕・接客（パート2.89倍）、警備員（フルタイム5.79倍）、農林漁業（パート2.30倍）、トラックなどの運転手（フルタイム2.20倍）、建設作業員（フルタイム3.55倍）、清掃作業員（パート2.82倍）などとなっています。一方極端に低いのが事務職で一般事務職フルタイムでは、0.28倍です。もうお分かりですよ？人手が不足しているのは、「体を動かしながら現場で働く人たち」

先日ラジオを聴いていたら、「電子タグの普及によりお店に人がいなくなるかも？」という話を伝えていました。それを伝えたパーソナリティは、「人と人とのふれ合いがなくなつて寂しいよね」とコメントしていました。俄かに顕在化した「人手不足社会」とその先にある「人工知能社会」。人工知能やロボットが人を補ううちはいいのかも知れませんが、しかし、人が人工知能と競わされる社会にならないか？管理の集中により息苦しい社会にならないか？とても気になります。

東龍夫（ひがしたつお）
1952年生まれ。再生資源回収業。大量消費社会から持続可能な循環型社会を目指して活動中。札幌市環境保全アドバイザー、北海道環境学習トレーナーを務める。

第七〇回 国会図書館サーチ

国会図書館（東京都千代田区）を久しぶりに訪れた。東京に住んでいるところはよく行ったが、しばらく行っていなかったら、おしゃべりで使いやすいそんな図書館に变身していた。

言うまでもなく国会図書館は、日本の図書館の「頂点」に立つ立場の図書館。

「国会」という名前が付いているので誤解している人も多いが、要は国立中央図書館。で、その国会図書館が現在力を入れているのが電子データとデータベースの整備だ。

『自分で調べる技術』という二〇〇四年に出した本の改訂版を執筆する過程で、どうしても国会図書館に聞いておかなければならないことがいくつも出てきて、今回その取材で国会図書館を訪れた。

国会図書館の担当者に聞いたのは「国会図書館サーチ」の仕様について。その話は細かい技術的なものなので省略するが、「国会図書館サーチ」(<http://ss.ndl.go.jp/>)は、図書・雑誌・資料・デジタルデータの総合検索サイトだ。近年「国会図書館サーチ」はどんどん進化してきて、本や雑誌論文・記事を調べるようになって

「とにかく国会図書館サーチで」と言えるようになってきている。

「国会図書館サーチ」の特徴は、本と雑誌記事・論文が横断的かつ網羅的に調べられること、本は公立図書館や大学も含めて一括して調べられること、雑誌論文・記事本文については、PDFが外部のデータベースにあればそこに簡単に飛んでくれ、なければそのコピーを国会図書館から取り寄せることが容易にできること、だ。本の検索は、中の章タイトルなどからも検索できる（ただしそれができるのは三割程度の本にとどまる。この「三割」というのは、実際に百冊くらいの本についてがんばって調べてみた結果の数字）。もちろん、本の現物を送ってもらうことはできないので、それは図書館などで見ることになる。

国会図書館サーチだけでなく本や雑誌記事・論文についてはほとんど調べられるよ、と言いたいが、それにもう一つ加えるとしたら、Google Books (<https://books.google.co.jp/>)。Google Booksがすごなのは、本の中身（つまり本文）を

全文検索してくれること。たとえば「地域おこし協力隊」の事例が描かれた本はないかとGoogle Booksで検索すると、たくさん関連の本がヒットする。その多くは国会図書館サーチで「地域おこし協力隊」で検索しても出てこないものだ。

いくら政権が反知性主義に陥ろうとも、市民が調査して政策提言していく価値は低まったわけでない。市民による調査、市民による政策提言の強力なツールの一つとして「国会図書館サーチ」はもっと使われてよいだろう。

宮内泰介（みやうちたいすけ）

1961年生まれ。さっぽろ自由学校「遊」共同代表。北海道大学教員（環境社会学）。ソロモン諸島、北海道、宮城などで、環境、生活の調査中。



国会図書館サーチだけでなく本や雑誌記事・論文についてはほとんど調べられるよ、と言いたいが、それにもう一つ加えるとしたら、Google Books (<https://books.google.co.jp/>)。Google Booksがすごなのは、本の中身（つまり本文）を

自然食ホロ

札幌市東区中沼西5条2丁目3-16
TEL: 887-6224
いつも喜んで、感謝して。
<http://holo.sunnyday.jp/>

オーガニック・自然食品専門店

有機やさいと加工品！
配達もやっています！
らる畑
札幌市中央区大通西23丁目
tel 614-2406 Fax 614-3836
<http://rarubatake.com>
AM10時～PM7時（日曜PM5時）



さままに俳句

第13回

世界最短の定型詩と言われる俳句。五・七・五で作られる世界。日常、見たり聞いたり感じたりしたことを、忙しい日々で忘れてしまふその一瞬を、十七文字に込めてみました。

雨上がり葉に残るしずく夏小径

雨上がりの夕方、すずらん畑の小径を散歩していた。道端に咲くすずらんは、なんとも可憐で愛らしい。足元の小さなすずらんを覗きこんで見ていると、すずらんの間には、きらりと光る水滴を見つけた。葉っぱの上に雨のしずくがぼつんぼつんと付いていた。さっきまで降っていた雨が残したしずく。雨の日だけの自然のアート。自然が作り出す芸術はその時その時にしか作り出されない貴重な瞬間。雨はあまり好きじゃないけれど、こんな素敵な発見ができるなら、雨降りも楽しくなる。



柚原 誓子 (ゆはら せいこ)

平日は会社員。休日は心惹かれるままに、趣味のスキー、温泉、旅行を楽しんでいます。数年前から始めた俳句。あらためて日本語の美しさに触れています。

明け方の窓越しの海に月涼し

窓を開けると海が見える港町。まだ少しひんやりとする夏の始め。窓越しに明け方の海を眺めていた。黒く穏やかな海面と静かに流れる時間。海面に映る月は、とても幻想的だった。海の町であるからこそ見られるこの景色。明るくキラキラ光る海面も好きだけど、薄暗い海に映る月の姿もこんなにも美しいとは。ずっと眺めていたかった。この初夏の明け方の海を。

事務局だより



5/6月は、NPOの総会シーズン。「遊」でも6月11日に今年度の会員総会を行いました。総会を行うには、活動報告・決算や活動計画・予算をまとめた議案書を作成するなど準備は大変ですが、総会自体はあまり意見も出ずにシャンシャンとなってしまうケースも多いようです。正直、「遊」の総会でもそうなりがちなこともあるのですが、今年の総会では昨年来の名義後援問題について活発に意見交換がされたり、初めて参加してくれた会員からも積極的な提案が出されたり、よい話し合いの場となりました。国政では、首相が通したい法律はろくに議論もせずに押し通り、一方で都合の悪い疑惑に対しては説明もせずにしらを切るという、もはや民主主義とは呼びがたい状態になっています。意見の対立が感情的なもつれや人格攻撃になってしまうことは市民活動でもありがちなことですが、意見を意見として尊重しあい、合意形成をしていく気風を身近な場面から創りだしていきたいものだと感じる今日この頃です。(小泉雅弘)



編集後記

今回の特集にはたくさんの皆さんにご協力いただき感謝の気持ちでいっぱいです。子どもの貧困講座は7月から後半戦に入り、7/31「貧困支援の現場から」、8/28「具体的な展望をさぐる」が予定されています。特に8月の最終回は札幌市の行政担当者の方も現段階の計画を持って参加して下さいませ。この問題に携わっている方もそうでない方もみんなで膝を突き合わせこの問題について語り合いませんか。お待ちしております。(雨宮)

生活クラブは、
ちょっと変わった
生協です♪
モットーは
「おいしくてカラダによくて
自然を壊さない」です

生活クラブ北海道 検索

北海道平和運動
フォーラム

代表 江本 秀春
代表 清末 愛砂
代表 長田 秀樹

札幌市中央区北4条西12丁目
TEL.011-231-4157
FAX.011-261-2759
<http://peace-forum.org/>

Simple Life, High Thinking

小5から高3まで

スコアレ ユウ
NPO法人 森の学校ユウ

〒007-0866 札幌市東区伏古6条4丁目4-21
TEL. 785-0228
東苗穂校 東区東苗穂8条2丁目13 TEL. 791-5770

内科・神経内科
札幌中央
ファミリークリニック

外来一般診療
月火木金9:00~12:00

札幌市中央区南1条西11丁目
海晃南一条ビル6F
TEL. 272-3455



さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ

7月～8月の講座よりピックアップ（*は単発参加費）

※他にも参加可能な講座あります。詳しくはカレンダーを参照ください。

＜韓国民主化と政治体制～独裁のあとに何が起きたか＞ *一般 1,500、会員 1,000、ユース 500

●講師 朴 権浩（北海道大学法学研究科博士課程）

7/13（木）18:45～ 第3回 政党間競争の構造から現代韓国をよみとく

＜音楽と美術で学ぶヨーロッパ文化＞ *一般 1,500、会員 1,000、ユース 500

●講師 くらだ としひこ（NPO 小さなカレッジ代表）

7/14（金）18:45～ 第4回 イギリス 8/11（金）18:45～ 第5回 ドイツ

＜天皇制ってなに？～退位の大意＞ *一般 1,500、会員 1,000、ユース 500

7/21（金）18:45～ 第3回 捉えどころのない天皇制 ●北村 巖（北海道文教大学講師）

8/18（金）18:45～ 第4回 退位・憲法・皇室典範 ●池田 賢太（弁護士）

＜憲法カフェ@ゆう「私たちの憲法」＞ *一般 1,000、会員 800、ユース 400

●チューター 池田 賢太（弁護士）

7/24（月）18:45～ 第3回 8/21（月）18:45～ 第4回

＜北海道をもっと知ろう！アイヌ入門講座＞ *一般 1,500、会員・アイヌ民族 1,000、ユース 500

7/28（金）18:45～ 第3回 先住民族とは？ ●阿部千里（アイヌ・先住民族電影社）

8/25（金）18:45～ 第4回 海外の先住民族の状況 ●ディバン・スクルマン

＜子どもの貧困を考える 2＞ *一般 1,500、会員 1,000、ユース 500

7/31（月）18:45～ 第3回 貧困の連鎖を断ち切るためには…その1

●山中啓史（札幌市ホームレス相談支援センター JOIN）●平田なぎさ（反貧困ネット北海道）

8/28（月）18:45～ 第4回 貧困の連鎖を断ち切るためには…その2

●平井照枝（しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道）●深堀麻菜香（大学生）

＜北海道 150 年をみつめ直す～「人びと」からみた北海道の近代＞ *一般 1,500、会員 1,000、ユース 500

8/4（金）18:45～ 第3回 北海道の近代史を見る視点 ●山田 伸一（歴史研究家・学芸員）

8/5（土）【番外編】北海道博物館見学

（参加費実費、要事前申込）

**東ティモール
マウベシ珈琲**

オーガニックカフェやショップで販売中
フェアトレードの美味しいコーヒー！！

NPO 法人 ほっかいどうピーストレード
TEL 070-5619-3222
hokkaidopeacetrade@gmail.com

いつだって No Nuke !

北海道のエネルギーの未来を考える
10,000人の会

ゆうひろば

発行：NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目 愛生館ビル5F 501

・郵便振替口座： 02780-5-47036（名義：自由学校「遊」）



- ・TEL:011-252-6752
- ・FAX:011-252-6751
- ・syu@sapporoyu.org
- ・http://www.sapporoyu.org

二次元コード読取機能付の携帯電話でこのコードを読み取ると、カレンダー情報のページにアクセスできます。携帯電話用のURLを直接入力しても同様です。
http://sapporoyu.org/m/

